

子宮頸がんは予防できるがんです

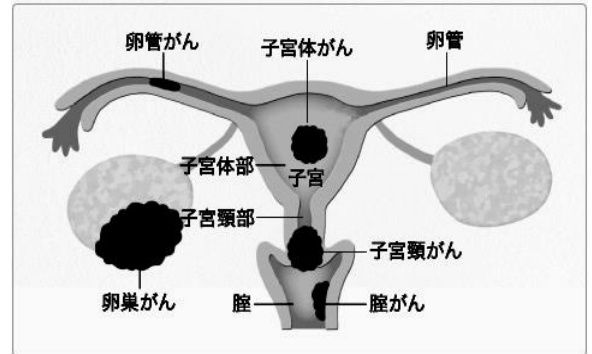
1. 子宮頸がんについて

子宮がんには「子宮体がん」と「子宮頸がん」の2種類があり、「子宮体がん」は、子宮の奥(体部の内膜)にできるがん、「子宮頸がん」は、子宮の入口である上皮(表面の細胞)にできるがんです。

子宮がんにかかる人は、年間約 28,500 人でこのうち子宮頸がんが約 11,000 人です。また、子宮がんで亡くなる人は年間約 6,800 人でこのうち子宮頸がんは 2,900 人です。

年齢別にみた子宮頸がんの罹患率は、近年 30 歳代から 40 歳代の女性で増加傾向にあります。

図:子宮の構造と女性性器がんの種類

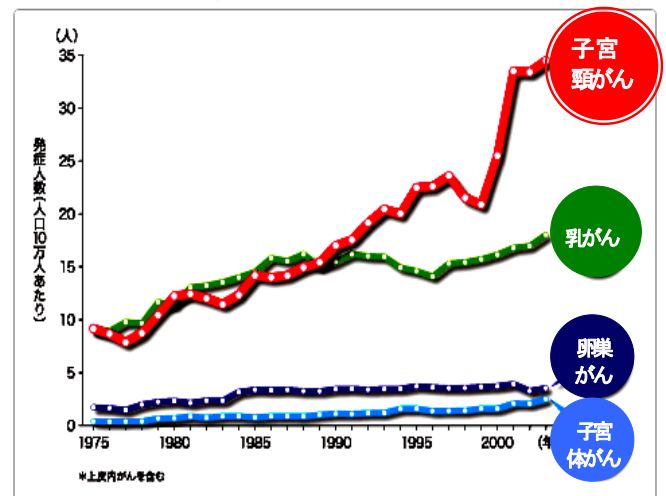


2. 子宮頸がんの原因

ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が発がんとの強い関係があります。

ヒトパピローマウイルス(HPV)は皮膚や粘膜に存在する、ごくありふれたウイルスです。100種類以上のタイプがありますが、子宮頸がんの原因となるのは 15 種類ほどで、性交渉によって感染します。感染しても多くの場合は自然に排除されますが、排除されなかった一部のウイルスの感染が長期間続くと、がん化するといわれています。

図:日本における20~39歳の女性10万人当たりの各種がんの発症率推移



国立がんセンターがん対策情報センター、人口動態統計(厚生労働大臣官房統計情報部)

3. 子宮頸がんの予防

ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐ子宮頸がん予防ワクチンが、医療機関で接種できるようになりました。

ワクチンは、ヒトパピローマウイルス(HPV)に感染していない 10 代の時に受けることが効果的です。

ワクチンでは、すべてのヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐことはできませんので、子宮頸がんを早期発見するためには、20 歳を過ぎたら定期的に子宮頸がん検診を受ける必要があります。

子宮頸がん予防のためには、ワクチンの接種と定期的に子宮頸がん検診を受けることが大切です。

子宮頸がんは、予防する時代です。
自分だけは大丈夫と思わないで、予防接種と検診で子宮頸がんを予防しましょう！

